

令和元年度 第1回 碧南市図書館協議会 会議録

1 日時

令和元年7月3日（水）午前10時～午前11時30分

2 場所

碧南市民図書館 2階会議室

3 出席者

(1) 出席委員

宮本美枝子、浅井久夫、石川和昌、小島真由子、木村安宏、杉浦正勝、
廣田吉一、神谷俊幸、森田恭子

(2) 欠席委員

油谷修子

(3) 事務局職員

教育部長：奥谷直人、文化創造課長：杉浦宏真、
市民図書館副館長：関由香、南部分館長：大橋幹広、
中部分館長：長谷川有里、市民図書館係長：長田和子

4 傍聴者

0名

5 協議会内容

市民憲章唱和

(1) 教育長あいさつ

(2) 会長あいさつ

(3) 議題

(1) 平成30年度図書館の事業実績について

事務局

「碧南市の図書館2019」という緑色の冊子に沿って事業実績について報告する。

まず「碧南市の図書館2019」の15ページにある蔵書状況について、平成30年度の蔵書冊数は、分館や公民館図書室も含め、全体で556,460点。これは、同規模人口の自治体と比較してもかなり多い方であり、また、前年度より0.5%増加している。内訳として、本(図書)は前年度より0.5%増加し、CDやDVDなどの視聴覚資料は紙芝居を含めて前年度より0.4%増加した。購入冊数については、平成29年度が10,296点、平成30年度は11,047点で、751冊増加している。その理由として、まず、平成30年度は、市制70周年記念にあわせて宇宙関連の本を購入することになり、資料購入費の予算が10万円分増えたことがあげられる。また、学校や園への団体貸出用の資料購入費用として、例年より50万円多く予算がついたことも増加理由としてあげられる。この市制70周年記念と団体貸出用に購入した資料冊数は、あわせて502冊である。

次に、登録者数と入館者数について説明する。「碧南市の図書館2019」の28ページ、(1)登録者を見ると、平成30年度の登録者数は52,498人。碧南市の年度末人口は73,104人で、登録者のうち住所が碧南市の方は36,059人である。利用者登録して貸出カードを作成しても、一度しか利用しない人もいれば、毎週のように利用するヘビーユーザーもいるため、利用頻度に個人差はあるが、碧南市民の約49%が図書館の貸出カードを作成している計算になる。

次に、(2)利用者(延べ人数)について、平成30年度は本館・分館合わせて115,373人。平成29年度は11

6,894人であったため、少しばかり減少している。なお、ここでいう利用者数とは、資料の貸出処理をした人数のことであり、平成29年度と比較すると2.4%の減となっている。次に、(3)入館者数について、平成30年度は、本館・分館合わせて271,287人が来館したが、平成29年度と比べると3,032人減少し、率にして2.1%の減である。現状としては、利用者、入館者数ともじわじわと減少している。減少理由として、まず、資料の館外貸出については、毎年同じ理由になってしまうが、スマートフォンなどを見る時間が増えた分、読書する時間が減ってきているのが大きな要因の一つと考えられる。また、利用者・入館者数の減少については、碧南市内の日本人の人口が減少していることが少なからず影響しているのではないかと考えている。市内全体の人口は減少していないが、日本人の人口だけをみると2%ほど減少しており、一方で、外国人の人口は増加している。今後は、外国籍の人たちにどのような図書館サービスを提供すべきか、考えていく必要がある。

次に、予約・リクエストサービスについて、「碧南市の図書館2019」の29ページを見ると、平成30年度は36,206件の予約・リクエストがあった。平成29年度と比較すると、1,150件増加している。これは、図書館のホームページから自分の必要な資料を検索して予約を入れ、資料が揃ってからカウンターで借りるという、パソコンやスマホを絡めて図書館を利用するスタイルが定着してきたことにより増加したものと分析している。

次に、その他のサービスについて報告する。コピー・サービスについては、本館・分館ともに件数も枚数も毎年減少している。平成30年度の複写件数は900件、枚数は3,909枚であった。複写サービス利用の減少についても、紙よりもスマホなどの電子媒体に情報を保存すればよいと考える

人が増えたためと思われる。なお、平成２９年度までは、データベースからプリントアウトした枚数もコピー・サービスの中に含めていたが、データベースの利用が増えてきたため、本などをコピー（複写）した枚数とデータベースからプリントアウトした枚数を分けて表記することにした。よって、資料の中で、コピー・サービスの件数表の下に、米印で「国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの複写含む」という一文があるが、実際には含まれていないので、この一文は消してもらいたい。

次に、データベース等の利用について報告する。まず「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」とは、国立国会図書館が所蔵する、著作権の切れた貴重な資料をデジタル化し、ネット上で閲覧できるようにしたもので、プリントアウトまでできるサービスのことである。さらに、当館の指定端末であれば一般向けに公開されている範囲より、さらに広い範囲で資料を閲覧できる。平成３０年度は、２２件の利用があり、複写枚数は４０４枚で、平成２９年度と比較すると１４９枚増加している。他にも、当館で利用できるデータベースとしては、平成２９年度より新規導入した「中日新聞記事データベース」と、すべての現行法規を検索でき、法律の変遷も確認できる「D１－L a w」というデータベースがある。こちらのデータベースは、平成２６年度より導入していたが、利用状況は特に公表しておらず、今年度作成した年報から公表している。

次に、障害者サービスについて報告する。現在利用者数はそれほど多くないが、図書館サービスの中でも重要な役割をもつものである。実際には「音声訳ボランティアグループひびき」のみなさんが、目や身体の不自由な方々の読みたい本をご本人の前で朗読するという、いわゆる対面朗読を実施したり、碧南市の広報や議会だよりを音訳してカセットテープに

吹き込み、希望者に提供するなどの役割を担ってくれている。また、図書館では、からだが不自由で、なかなか来館できない方のために、資料の郵送貸出サービスも行っている。平成30年度は、目の不自由な方と合わせて389点の資料を郵送貸出した。平成30年度の対面朗読については44回行い、平成29年度より5回増えている。

次に、レファレンス・サービスについて報告する。レファレンス・サービスとは、利用者が図書館にある本や知りたい情報をうまく探し出せない時に、司書が手助けする業務のことである。このレファレンス・サービスは、来館者数が減っているにも関わらず、利用件数が増加している。平成30年度のレファレンス・サービスの件数は7,902件で、平成29年度の6,976件より926件増えて、前年度対比は11.3%である。レファレンス・サービスを利用する人は、インターネットで調べてもどうしても欲しい情報が見つからず、図書館なら何らかの情報があるのではないかと思って、レファレンスカウンターへ来ることが多い。「碧南市の図書館2019」に、平成30年度に受け付けたレファレンスの事例を紹介している。面白い質問もあるので、時間のあるときにご確認いただきたい。

会 長

今、事務局が説明した範囲で質問等はあるか。

会議が始まる前に、この1時間半の会議中に、皆さん全員から意見や質問などをしていただければ嬉しいと、館長と話していた。というのも、館長、副館長が言うには、図書館を外から見ている人の意見というのは、どんな小さなことでも図書館のためになることが多いからだそうだ。そういうわけで、みなさんにはぜひ、遠慮なく意見を仰っていただきたい。

A 委 員

先ほど、入館者数は前年度より率にして2.1%減少しており、その要因として碧南市全体の人口は増えているが、日本人が減少して外国人が増加しているからの説明があった

が、学校でも外国の児童が増加している。それに関連して、外国の児童向けの教材には頭を悩ませている。というのも、現状、その児童のためだけに、学校で専用の教材を購入するのが難しいためである。そこで、図書館では今、外国の児童の学習に役立つような本がどの程度整っているか教えてもらいたい。また、来年度の事業計画にも関係してくると思うが、今後、外国籍の子どものためにどのような資料を購入し、どう対応していくのか、方向性が決まっていればお聞きしたい。

事 務 局

外国の児童向けの資料については、図書館でも手に入れるのに大変苦労している。インターネットのショッピングサイトで検索すればいくつも見つかるが、公費での支払い手続き（納品後に振込みで料金を支払うこと）ができない。かわりに、公費での支払い手続きができる業者から資料のリストをもらい、その中から選んで購入することになる。購入後は、当館資料として登録する作業を進めていくのだが、さまざまな国の言葉で書かれた資料のデータをいちから作成するのは大変な作業である。その手間を考えると、一度に多くの外国語資料をまとめて購入するのは難しい。ただ、日本を訪れる外国人観光者の増加に合わせて、日本の出版社が外国語併記の本などを以前よりも多く出版するようになった。外国語併記といってもほとんどのものが英語に限られるが、外国語併記の資料をリストの中で見つけたときには、なるべく購入するようにしている。また、後ほど説明するつもりであったが、来年度には小学校で英語が教科化されるのにあわせて、図書館でも資料購入費の予算がついた。英語用の資料費ではあるが、ポルトガル語など他言語の資料も探してみて、あれば購入しようと考えている。また、紙媒体の外国語資料を購入するのが難しい場合は、碧南市のホームページにも翻訳システムが入っているように、機械的に補えるようなこと、例

えば電子図書なども含めて、今後検討していきたい。

会 長

図書館というのは、入館者数などの数字が少なくなってくると、活動が減退しているのではないかと、業務に手を抜いているのではないのかと思われがちである。個人的には、図書館とは、量より質が問題であると思っている。私の息子たちは40代後半から50代であるが、図書館でいろいろな本を借りてきて読む余裕がないため、図書館をあまり利用していない。しかし、図書館の利用頻度は年齢層によって異なるはずである。図書館では、子どもたちや、定年を迎えて時間にゆとりのある年齢層をターゲットにしていると思うがどうして利用者数などが増えないのかを私なりに考えてみた。すると、先ほど事務局が言っていたように、今はスマホでほとんどのことが調べられ、多くの人がそこから知識を得ることができてしまうからだと思う。さらに、スマホで調べた方が時短になる。そういう点においても、図書館を利用するハードルは高いと、息子たちから聞いている。ちなみに、現在の図書館の利用者数、入館者数の年齢層についてはどのような状況か。

事 務 局

図書館利用者の年齢層については、60歳以上の方も多いが子育て中のお母さん、お父さんたちも多い。子どもは、読み聞かせや読書により言葉を獲得していくと言われているため、図書館でも読み聞かせなどに力を入れていきたいと考えている。おっしゃるとおり、スマホは確かに便利だが、実際に自分の知りたいことを調べようとすると、インターネットの情報だけでは十分に賄えない場合がある。すると、インターネットの情報だけでなく、図書館の資料で情報収集する人も多い。そういった点からも、図書館は図書館として、情報をきちんと整備していくべきと考えている。

事 務 局

次に、平成30年度の行事の実績について報告する。「碧南市の図書館2019」の32ページから36ページまでが各

館で行っている行事の一覧である。これらの行事は、実際に図書館に足を運んでもらって、図書館を利用するきっかけ作りにしてもらおうと実施しているものである。

まず、毎月開催しているおはなし会については、ボランティアのみなさんにも手伝っていただきながら実施している。

先程、「ひびき」という音声訳ボランティアを紹介したが、他のボランティア団体についても紹介したい。資料の38ページ、「団体活動」という項目で紹介している。上から、「かざぐるま」、今年度文部科学大臣賞を受賞した「夢クラブ」に、「ひびき」、「えほんの森」。それから、大きな団体では、「友の会」がある。本日の会議にも、友の会の会長が出席してくださっているが、友の会にも、さまざまな事業を手伝っていただいている。

事業報告に戻って、32ページの行事一覧をご覧ください。事業内容などが細かく書いてあるが、まず行事の参加人数について報告する。平成30年度は、全館で8,703人が図書館行事に参加した。平成29年度は7,779人であったため、参加人数はわずかではあるが増加している。次に、各館で主要な行事を取り上げて、行事内容等について説明していく。

まず、本館での「おひぎにだっこのおはなし会」について、疑問に思われた方もいらっしゃるかと思うので先に説明しておく。この行事は月2回開催にも関わらず、年間の実施回数が25回となっているが、これは、開催日を間違えて来館したお客様が何人かいたので、1回分臨時で開催したためである。また、平成30年度の特徴として、市制70周年記念事業がある。「へきにゃごまつり～秋の読書月間～」というイベント内容の中で、※印がついている「りかあそびくエッグドロップ実験」や「おはなし会スペシャル＜宇宙＞」、「宇宙に関する本の展示（一般と児童向け）」が碧南市制7

0周年記念事業の内容であるが、中でも工作や、理科遊びなどが人気だった。

南部分館長

次に、南部分館の事業実績について報告する。当館は皆さんご存知のとおり、二階にアリーナ（体育館）がある複合施設である。その特徴を生かして、平成30年度もアリーナを活用した事業を3回実施した。事業一覧の中の、6月9日「<ブタ飛行機>をとばそう!」、8月19日「くらくて楽しい!おはなし会」、11月7日「おりがみたいむスペシャル」がアリーナで実施した行事である。平成29年度も内容は異なるが、アリーナを使った事業を3回実施し、参加者は73名で、平成30年度も同じく3回実施して、参加者は97名であった。今後も、施設の特徴を生かし、図書館に来ることの楽しさを体験していただけるよう工夫していきたい。南部分館の平成30年度の利用者、入館者、貸出数は、平成29年度からわずかに減少しているが、このような行事に参加してくれた方たちに、本の貸し出しや、次の行事への参加を呼びかけるなど、積極的にPRしていくことで、図書館に何度でも足を運んでもらえるようになることを期待している。実際に、行事参加者へのPRに力を入れてきたことで、若干ではあるが成果も出てきているように感じる。令和元年度も引き続き、このような形で事業を実施していきたいと考えている。

中部分館長

続いて、中部分館の事業実績について報告する。定例行事の、「おはなし会」、「おひざにだっこのおはなし会」等は、残念ながら各行事合わせて30名程度参加者が減少した。一方で、「子ども読書の日 記念おはなし会」や「クリスマスおはなし会」などの行事では参加者が若干増加した。平成30年度は「柵尾児童センター保護者向け読み聞かせ講座」という行事があり、こちらは柵尾児童センターより依頼を受けて、保護者向けの読み聞かせ講座を開催した。今後定例化するかはわからないが、図書館にあまり来館されない保護者に向けて、

良いアピールができたと思う。

会 長 南部と中部分館の行事について質問や、より具体的に確認したい部分はあるか。

B 委 員 毎年この会議で事業実績の報告を受けているが、碧南市の図書館の入館者数、利用者数の増減については前年比でわかる。ただ、それらの人数を他市の図書館と比較するのは（規模も違うので）難しいし、比較しようもないけれども、非常に良い活動をしていると思う。本日、この会議に出席するにあたって、1階や2階をひとまわりしてきたが、全体的にきれいに整理してあるし、本の並べ方や、新刊書、テーマ本の展示の仕方も非常にきれいに整理されていて、いかに利用者の目につくようにするか、利用しやすいようにするかという点において努力が感じられる。あとは、職員の皆さんが利用者に対して笑顔で接し、少しでも会話をしてあげると良いと思う。図書館のような施設では、人の話し声というのは、邪魔に感じられることもあるだろうが、特に子どもなどにとっては、図書館の人と話をしたことが、次の利用に繋がるような気がする。そういうことも含めたうえで、今後も業務を続けていきたい。

C 委 員 自分の場合、昔から読み続けている作家の本を読むことが多いので、最近の直木賞などを受賞した作家の中には、自分の知らない作家も多い。図書館では、そういった最近注目されているような、新しい作家の本を購入することは考えているか。本屋大賞などを受賞した本に関する話題を耳にすると、読んでみようかなと思うこともある。そういった比較的新しい作家の本について、何か新しいことをしているか。

事 務 局 新しい作家については、常にアンテナを張って情報収集し、何らかの文学賞を受賞した作家の本はもちろん、話題性のある人の本なども、確実に図書館へ入れるよう心がけている。ただ、新しい作家でなくても、昔から有名な作家、たとえば

山本周五郎や新田次郎なども根強い人気があるので、図書館としては、そういった作品もしっかりと揃えておく必要がある。また、昔から人気のある作家の本は利用が多く、すぐにボロボロになるため、買い替えなども随時している。昔の作品の場合、ハードカバーが手に入らないこともあるが、かわりに文庫本を購入するなどして、必ず図書館に所蔵があるようにしている。

C 委 員

その際に、人気のある作家の本や新しい本が入ったことがすぐにわかるようなコーナーを作ったりして、利用者にもっとアピールすることが必要だと思う。

(2) 令和元年度図書館の事業計画及び関係予算について

事 務 局

まず、去年の図書館協議会でみなさんに予算について説明した際、資料費の増減がわかりにくいとの指摘があったため、予算構成に関する表をもう少し詳細にした。

では、令和元年度の予算の中でも主立った箇所を説明する。

「碧南市の図書館 2019」の13ページ(2)「図書館費の構成」について、11節の需用費のうち印刷製本費は前年度対比212%である。これは、返却期限が1ヶ月以上過ぎている利用者へ、図書館から督促のハガキを出しているのだが、そのハガキの残数が少なくなってきたため、印刷製本費として約87,000円がついたことで、予算が大幅に増えている。また、修繕費については、前年度対比39.5%となっているが、これは前年度に、電動書架の修理費98万2,000円と軽自動車の車検があったためで、令和元年度にはどちらも実施しないため減少した。次に、備品購入費の中の資料購入費については、図書と視聴覚資料とを分けて記載した。昨年度とほぼ同額であるが、今年は10月より消費税が上がる可能性があるため、購入数は昨年度より少し減るもの

と予想している。なお、新聞雑誌については、資料費ではなく、11節需用費のうちの消耗品費に入っており、購入予定数は昨年度とほぼ同数である。続いて、今年度の事業計画について説明する。まず、今年度の特徴として、資料購入については、先ほど話したように、英語が教科化されるということで、小学校の英語教育用の洋書を重点的に購入する予定である。また、図書館システムの更新事業について、今年は5年に1度のシステム更新の時期にあたり、現在使用中の図書館システムは、来年の2月末に更新し、3月からは新システムが稼動する予定である。続いて、年間行事について、すでに昨年度の2月に開催した図書館協議会で説明しているが、2月以降に決定した行事等もあるため簡単に説明する。まず、先ほど友の会の会長からも話があったが、今週末の7月6日に、図書館友の会との共催事業である「音楽と朗読の夕べ」が開催される。今年は、ヴァイオリン演奏はじめ、図書館のボランティアグループである「夢クラブ」や「かざぐるま」によるおはなし会を企画している。時間があれば、委員のみなさんにもぜひご参加いただきたい。また、以前説明した際には予定には入っていなかったが、10月に一般を対象とした「からだにいいものをおいしく食べる化学」という、名城大学と連携した出前講座を開催する。図書館の事業というと子ども向けの事業が多いが、図書館計画にもあるように、一般対象の事業にも力を入れて実施していきたいと考えている。

南部分館長

南部分館の事業計画については、今年度も7月7日に「七夕おはなし会」、冬には「クリスマスおはなし会」など、季節にちなんだ行事を予定している。大きな行事については、ボランティアグループの「かざぐるま」や「えほんの森」の協力のもと実施する予定である。

中部分館長

中部分館の事業については、定例のおはなし会を実施するな

会 長

ど、例年通りの行事を予定している。昨年度、春休みの行事や「こどもとしょかんまつり」などにおいて工作教室を開催したが、事前の参加申込は不要にし、工作教室の実施時間内に来たこどもたちに自由に楽しんでもらえるよう工夫したところ、普段は物語や絵本しか借りない子どもたちが、工作に関連した資料を借りていくなど相乗効果も見られた。今後、図書館にある資料をアピールできるような事業を実施することで、利用者の読書の幅を広げていきたいと考えている。今説明してもらった来年度の行事とは、今年度(令和元年度)の行事ということになるが、行事の膨らませ方や具体的な内容についての質問でもよいし、実際に図書館の行事に参加してみて良かった、などの感想でもよいのでご意見いただきたい。

D 委 員

青少年育成の関係ではよく会合が実施されており、こどもたちを動かすことも多いと思うが、図書館との関わりはどうか。青少年の行事で関わることはないか。

大浜地区(の青少年育成に関する事業)では図書館との関わりは全くない。公民館内の小さな図書館みたいなところを、小さな子どもが時々使っているのを見かけるくらい。

少しミーハーな質問になってしまうが、夜の情報番組などで図書館通帳の話題を見た。その通帳のおかげで、利用がとも増えているとのことだった。予算の関係もあると思うが、碧南での図書館通帳の導入や取り組みなどについて伺いたい。

事 務 局

図書館通帳は、近隣では岡崎市が導入している。地元の信金がスポンサーになっており、大人が使う銀行通帳とそっくりなフォルムをしている。図書館内にあるATMに似た機械に通帳を入れると、お金の出し入れが記帳されるように、自分が借りた本のタイトルが記帳される。導入した図書館ではどこも、特に子どもたちに大人気である。自分の読んだ本が記

帳されているのを見て、あまり読書が得意でない子どもでも、こんなにも本が読めたのかと目で見えて実感することで、次の読書への励みになったり、楽しいと感じるようだ。ただ、専用の機械が高く、通帳も1冊あたり約100円と少々値段がはる。当館でも導入できればと思っているが、もう少し機械が安くなないと難しく、導入できていない。その代わりに、手書きで記録していくタイプの「図書館パスポート」というものが当館にはある。例えば『ぐりとぐら』を読んだら、自分で『ぐりとぐら』と本のタイトルを書いて、国旗のシールを貼っていくタイプのものを用意しているので、そちらを利用していただければと思う。

会 長 機械で記帳できるタイプの図書館通帳を他市で導入しているところはあるのか。

事 務 局 岡崎市と安城市が導入している。全国的にみても、導入する図書館が出始めてきており、徐々に増えつつある状況である。どの図書館も、利用者の読書意欲をいかに高めるかという点において、本を読むきっかけづくりとして、図書館通帳の導入を考えている。

会 長 図書館通帳の導入には多額の予算が必要ということか。
図書館では、障害者の方たちも利用しやすいよう、車椅子やシルバーカーなどを予算に入れて設置していると思うが、隣の芸術文化ホールで行事があるとき、車椅子やシルバーカーなどの数は足りているのか。

事 務 局 図書館と芸術文化ホールの各館で車椅子を配置しているので、ホールの事業があるからといって、図書館で車椅子の数が不足して、利用に支障が出ることはない。また、図書館にはシルバーカートみたいなものが2台ある。このシルバーカートは、もともと友の会に寄附していただいたものだが、最近是利用される方が増えてきたため、もう少し数を増やせないか検討中である。

事 務 局	先ほどの図書館通帳について補足だが、当館の「図書館パスポート」とは、こども向けに発行している図書館通帳のようなもので、いくつか種類がある。大人向けの図書館通帳については、自分で書くタイプにはなるが、1階カウンターに置いてあり、自由に持っていけるようになっている。当館の図書館通帳の導入時期は、全国的にみてもかなり早かった。ただ、機械で記帳できないため、自分で地道に記入していかなければならないという点で華やかさには欠けるが、みなさまにもぜひ利用していただきたい。
会 長	無いものを補うには、いろいろなアイデアが必要ということか。 子どもと接することが多い委員もいらっしゃるが、何か意見はあるか。
E 委 員	図書館については素人なので一つ聞いておきたいことがある。図書館というのは利益を求めるところだろうか。
事 務 局	教育全般同様、利益を求めることはできないと思っている。
E 委 員	先ほど、来館者が減少していると聞いたが、逆に、出張というか出前という形で、図書館のアピールがてら「図書館に来ると、こういう本があるよ」とか、図書館職員が小学校や中学校に行って、PRしてみてもどうか。
事 務 局	以前はそういった事業も行っていた。現在は、学校司書さんが各小学校に配置されており、そういった方たちが図書館と学校の図書室をつなぐ活動をしている。また、学校側から、図書館と連携して行いたい事業や企画があるので来てほしいとの依頼があれば、いつでも行けるよう、体制は整えている。他にも学校との連携事業として、学校での教科の進み具合にあわせて、児童の学習に役立ちそうな本を図書館から学校図書室へ貸し出す「団体貸出」も行っている。例えば、授業で福祉に関することを勉強しているが、福祉関係の本が学校図書室の本だけでは足りないといったときに、図書館か

ら本を用意して貸し出すことである。

E 委 員

C DやD V D等の貸出がかなりあるようだが、来館者を増やすためのアピール方法の一つとして、もう少し資料数を増やしてみてもどうか。大人から子ども向けまで種類を増やしたり、最新のものを入れるなどしてアピールすれば、借りてみようという気持ちになるのではないか。

事 務 局

まず、D V Dの購入はC Dよりも難しい部分がある。販売されているD V Dのうち、図書館が館外貸出するための著作権をクリアしているものは、1点あたり1万5千円以上と高価なものが多い。それでも随時購入しているが、もし利用者が紛失して弁償という話になれば、トラブルにもなりやすいので、高価すぎるものは購入できない。D V D購入前に著作権を調べ、館外貸出可能か確認し、いざ1点1万円から1万5千円以上の値段のものを購入しようとする、この1万円があれば、本や絵本が何冊購入できるだろうかと天秤にかけて、やはりD V Dよりも本を増やしたほうが良いのではないかと考えてしまい、結局増やせていないのが現状である。ただ、C Dについては、当館の隣が音楽ホールということもあり、資料としてできるだけ収集するよう努めている。

会 長

中部分館の展示スペースが空いている状況だが、展示スペースが使いづらいのか、それとも作品を展示したいという人がいないのか。

中部分館長

ギャラリー利用者は絶賛募集中なのだが、なかなか集まらない。中部分館の展示スペースは、絵画や書など、掛けて飾るタイプの作品しか展示できない。本館のように、陶芸作品などを展示するスペースもないため、展示物が限られてしまう。ギャラリーをうめる方法として、例えば、文化会館での展示のついでや、展示終了後でも構わないので、ぜひ中部分館にも展示してもらえるとありがたい。

F 委 員

文化協会が、日本画や洋画、パッチワークなどを額装して、

あおいパークやプール、それから市民病院の壁に掛けるなどして定期的に展示している。事務局から、文化協会の各団体へ、図書館で展示をしてもらいたいと話をもっていくと良いかもしれない。ただ、展示があまりにも頻繁だと、作品を制作している人の負担が大きくなってしまうので、そうならないように注意した方がよい。もともと、文化協会のみなさんは、常設的な展示場所が市内でも4、5ヶ所あるので、各図書館から話を持っていけば、多分検討してもらえと思う。自分も昔は、本館の展示室をよく使っていた。当時はあまり展示をする人が少なかったため、個人的に頼まれて作品を展示する機会が多かった。その後、展示したいという人が増えてくると、なかなか都合の良い展示期間をもらえなくなった。展示会も定期的にあれば割と作品が集まるが、展示のタイミングが不規則だと、作品数を出そうと思ってもなかなか集まらない。文化協会に依頼するときには、展示時期や期間などを前々から計画しておいて、話を持って行くと良い。

C 委 員

以前、文協の常任をやっていたが、作品を出す側としては、あまり展示回数を増やしたくないと思う。あおいパークはじめ、市民病院や文化会館、プールなど展示する機会がかなりあるため、回数が今まで以上に増えると、自分が所属していた団体のように文化協会を辞めてしまう団体も出てきてしまうかもしれないので、そのあたりは考慮してもらいたい。ただ、どこかの展示のついで、それこそ文化会館に展示したときに、隣の中部分館でもついでに展示してもらえないかと依頼すれば、受けてもらえると思うので、アピールしてみてもいいのではないだろうか。

中部分館長

いただいたご意見を参考に試してみる。ただ、中部分館は展示スペースがあまり広くなく、展示できる作品数も多くはない。本当にこじんまりと展示していただくことになってしまうのは心苦しいが、文化会館で行われる文協祭とか文化祭の

ついでに展示していただければと思う。

F 委 員 (マイクを使用していないため聞き取れない)

文化会館に飾る作品は割と大きいので、中部分館で飾るのは難しいかもしれない。

C 委 員 色紙程度であれば展示できるかもしれない。

F 委 員 あおいパークでも色紙を飾っている。文化会館の展示室に飾る作品はとにかく大きいので、中部分館だと1枚か2枚しか置けないため、文化会館のついでにというのは実際は難しいかもしれない。

中部分館長 参考にさせていただく。

B 委 員 私やみなさんが図書館に来るときというのは、何か良い本がないかな、とか、新しい情報はないかなと思って来ることが多い。先ほどC委員も言われたが、図書館に入った新刊本の紹介は、入口を進んですぐ正面のところにある。それと、特集としてテーマごとに集められた本が、新刊本の棚の裏にあるが、あれは見にくい。開館時からある作り付けの棚であるため、なかなか変えようもないかもしれないが、もう少し派手に、目につくようにした方が、来館者に「今月の特集」に気づいてもらいやすい。また、図書館の中を歩いていて気づいたことだが、新聞が置いてある場所の壁をはさんだ裏側に、唯一空いているスペースがある。昔は多くの雑誌が置いてあったと思われるが、それが今では、スペース全体の3分の1しか埋まっていない。極端なことを言うと、今置いてあるすべての雑誌を集めれば、3分の1以下のスペースで済むのに、あえてスペースを埋めようと分散して並べているため、かえってもの寂しい雰囲気になっている。この作り付けの棚の様式だと、何かを掲示するなどしてスペースを埋めるのは難しいかもしれないが、そこを工夫して、いろんな情報、例えば、一般書のベストリーダーとか、先ほどC委員がおっしゃったように、今話題の本を紹介するとか、冊子でなくとも用紙で

も良いので表示しておけば、今空いているスペースに、もう少し面白みが出てくると思う。出入り口から入って来て、そこまで見に来てくれる人がいるかどうかはわからないけれども考えてみてはどうか。図書館内は、職員の皆さんが掲示の仕方もいろいろと考えていると思うので、今以上に良くするというのはなかなか難しいかもしれないが、空いているスペースをうまく活用すれば、今までにない、新しい発想につながるのではないだろうか。とにかく、最初に言ったように、ほとんどの人は図書館に「なにか良い本はあるかな」という気持ちで来ているということを心に留めておいてほしい。

G 委 員

先ほどから、なるほどと感心させられる意見がたくさん出てきた。今言われたように、ギャラリーの展示を見に来てもらうことで、本を読むきっかけになれば良いことだと思う。私も、この会議の時や、何かしら用事がなければなかなか図書館に来る機会はないが、来てみるといろいろな本があるな、とか、新しい本が入ったなとか、図書館というのは良い空間であるなと気づくが、図書館まで来るということは、なかなかハードルの高いことである。けれども、例えば図書館内のギャラリーで展示がしてあって、それを見に行つたついでに本を見てみるだとか、本館の場合であれば、隣に芸文があるので、エメラルドホールでコンサートを聴いて、その帰りに少し図書館に寄ってみるとか、何かのついでに図書館へ来てもらうというのは、来館者が増えるだけで本を借りる利用者は増えないかもしれないが、図書館に足を運んでもらえるだけでも良いことだと思う。それと、これは時間的に難しいかもしれないが、例えば、「きらきらウォーク」の時には大勢の人がここに来るが、夜なので通常であれば図書館は開けていない。開けておくと休憩で使われて、館内にごみを落とされるなど、さまざまな問題が起きる可能性があるため、閉館にしていると思うが、逆に大勢の人が来る機会をうまく利用

して、図書館を見てもらうことも必要だと思う。

私は今、町内会だとか幹事部長などをやらせてもらっていて、地区への広報活動として回覧版などもまわすわけだが、それを上手に利用してはどうか。図書館の利用者は高齢者が多いということなら、高齢者向けの楽しい講座とか落語を企画して回覧板でPRするのもよいと思う。中部分館でそういった行事を開催すれば、日進や中央地区の人が来やすいだろうし、南部分館であれば大浜地区の人が、近くの図書館で面白そうな行事があるなら寄ってみようかと思ってくれるのではないだろうか。こどもたち向けの行事はもちろん、もっと高齢者向けの講座を企画して、地区にPRしたいということであれば協力できるかもしれない。

会 長 今、「ふるさとの達人」みたいな本をまとめているが、図書館にはそういったコーナーがあったか。藤井達吉現代美術館に行くと、きちんと並べて展示しており、300円か400円で買うのだが、図書館はどうか。

事 務 局 美術館で販売しているというのは『郷土の偉人』みたいな冊子のものか。

会 長 藁半紙でまとめたもので、冊子にはなっていないと思う。

事 務 局 当館では、正面玄関から入って奥のほうに地域資料のコーナーがあり、そこで、碧南に関する人物の本も集めてあるし、碧南の人が書いた本も集めてある。おっしゃっているものとは違うかもしれないが、帰りに地域資料コーナーに寄ってご確認いただければと思う。図書館で碧南市に関することを調べるときは、とりあえずそのコーナーに行っていいただければ関連資料を見ることができる。

会 長 帰りに見てみる。

H 委 員 この図書館（本館）は、出来てから何年くらい経つか。

事 務 局 25年が経つ。平成5年にオープンし、今年で26年目である。

H 委 員

私がまだ現職のとき、先日亡くなられた山中寛三先生と校長室で話をしていた際、図書館の話題になった。当時山中先生が建設関係の会長かなにかをされていた時期だと思うが、そのときに、全国的にみても、とても良い図書館が碧南市にできるというようなお話を何回も伺った。完成してから25年以上経過したとなると、当時、山中先生たちがこの図書館を建てられた時代と現代では、社会の様子というのは違ってきている。私は今まであまり真剣に考えてこなかったが、今日皆さんのお話を聞いて、インターネットによる図書館への影響など、図書館を取り巻く問題について頭に入れることができ、考えるきっかけとなった。図書館を必要としている人は、世代によっても違うし、今はインターネットから Kindle 版みたいなものをダウンロードすれば、図書館まで来なくてもすぐに読みたい本が読めてしまう時代である。クリックひとつで、自宅にしながら新刊が読めてしまう時代になった今、25年前に新しく建設される図書館に期待されていた図書館像みたいなものと、これから期待される図書館像とは変わってきてしまっているのではないだろうか。

資料の中にもあったが、2、3年前のアンケート調査の結果を見ると、とにかく今までのあり方と全く違うものが、社会変化によってもたらされているように感じる。これからの図書館をどのようなものにしていくか、人口が少し増えたとか減ったとか、そういうことももちろん大事ではあるが、世代によっても図書館に求めるものが違ってきている。そんな中で、図書館のこれからのあり方とか、どう変化に対応していけばいいのか、私には具体的なことはわからないが、この図書館協議会でも話題にして、少しでも新しい図書館づくりに役立つ会になれば良いと思っている。

この図書館には、高齢者だけでなく若い人も来る。さきほど私の孫の話をしたが、西尾市から0歳児の子を「おひぎにだ

っこのおはなし会」に2, 3回連れて行ったことがある。そういう若い親が、図書館に何を期待するか、というところも考えていく必要がある。日頃は、インターネットをもっぱら利用している若い世代が、図書館にも一応足を運んでいるので、若い人でも本を読む機会が増えるようにするにはどうすればよいかとか、本以外の違うメディアを入れてみるとか、何か新しい図書館の姿を、今後考えていかねばならないと思った。予算の問題などいろいろと考慮しなければならない点もあって、なかなか具体的な案が出せないかもしれないし、変わるのは難しいことだと思うが、この会が少しでも図書館の役に立てれば良いと思う。

会 長

皆さんから良い意見や質問等がたくさん出て良かったと思う。10年計画についても今後考えていきたい。

事 務 局

新しい委員の机の上に置いてあるのは、次回の図書館協議会の議題となる10年計画であり、次回はその進捗状況について報告する予定である。

先ほど、みなさんがおっしゃったように、現在図書館は過渡期にあると感じている。

アンフォーレのある安城市や現在は新しい図書館の計画がされている豊橋市など、図書館を町のにぎわいを創出する場として位置付けている自治体もある。反対に、佐賀にある武雄の図書館のように、にぎわい創出を目的としてできた図書館が、図書館としての機能が不十分であるとして、市民から反対されているところもある。図書館とは、法律できっちりと固められていないため、こうしなければいけないというところが、どちらかといえば少ない施設である。だからこそ、市民の意見を真摯に聞き取り、取り入れながら、将来的にどのようなしていけばよいのかということを考えていかねばならない。みなさんとは、そういう未来の図書館像みたいなものを一緒に考えていきたいと思っている。

会 長 質問等も出尽くしたところで、一旦ここで議事は終了とする。事務局の方から連絡はあるか。

事 務 局 第2回目の図書館協議会の開催日を2月の終わりから3月のはじめに計画している。次回は、今後10年間の図書館運営の計画について定めた「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」をもとに、図書館がどのように動いているか報告させていただく。

また、図書館のホームページでは、図書館で開催した行事などの写真も多くアップしているので、そちらもご覧いただき、改善点などご意見をいただければありがたい。

会 長 他に質問・意見等あるか。無いようなので、以上で第1回図書館協議会を終了する。